

(一) 次の文章を読んで、後の問い(問一～十三)に答えよ。

ことばは、子どもをどのように変えるのだろうか。ことばを覚えることで、コミュニケーションが可能になる。しかし、子どもが得るのは、コミュニケーション能力だけではない。

私たちは、自分の家にいるペットのネコが他のネコと違うことは、もちろんわかっている。今あなたの三毛ネコ「ミケ」があなたのひざにのっていたら、庭に見える、家のネコと見分けがつかないほどそっくりなネコが、家のミケではありえないと考える。それは同じ瞬間において、別の空間に同じ個体が同時に存在し得ないことを知っているからだ。

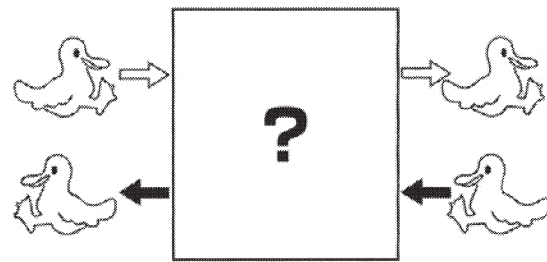


図1 1枚のついたてとアヒルのおもちゃの出入り

今度はあなたの目の前からミケがいなくなり、ミケが見えなくなったほうから黒いネコが現れたとしよう。あなたは黒いネコがミケだと思うだろうか。そうは思わないはずである。ミケとその現れた黒い猫は、明らかに見た目が違うからだ。つまり、私たちは「同じ個体」であるという認識に、時空間上のセ

イ
約と見た目を両方使っているのだ。

赤ちゃんはどうだろう。生後一〇カ月の赤ちゃんは、ことばを覚え始めたばかりで、まだほんのわずかなことばしか知らない。この赤ちゃんに、ある研究者は、このような実験をした(図1)。その赤ちゃんに人形劇の芝居のような舞台を見せる。舞台の上には、ついたてが一つ置いてある。この舞台で赤ちゃんは、おもちゃのアヒルがついたての後ろで動いているらしいシーンを見る。(実験者がアヒルを手で動かしているのだ。)アヒルはついたての左端からついたての後ろに入り、見た目はまったく同じアヒルが右端から出てくる。また同じアヒルが今度は右端からついたての後ろに入り、左端から出てくる。赤ちゃんは、おもちゃのアヒルが何個あると思っているだろうか。この場合、ついたての後ろで何が起きているのか見えないので、二通りの答えが可能である。

I。しかし、別の研究から、赤ちゃんは連続した軌跡で動くものは一つのモノであると考え、ということがわかってるので、この場合は、アヒルは一個だと思はずだ。

こんどは図2のように、同じ舞台の上に、ついたてを二つ置く。ついたての間には隙間があつて、間にあるものが見える。左側のついたてをついたて①、右側のをついたて②としよう。さっきと同じように、アヒルはあるときは、ついたて①の左端からついたての後ろに入り、見えなくなる。次に、見た目にはまったく同じアヒルが、ついたて②の右端から姿を現す。しかし、ついたての間の隙間からアヒルは見えなかった。今度はアヒルは、ついたて②の右端から入る。先ほどと同様に二つのついたての間には姿を見せず、ついたて①の左端から出てくる。このとき、赤ちゃんは、おもちゃのアヒルがはたして何個だと思うだろうか。

この場合、アヒルは二個でなければならぬはずだ。もし、ついたて②の右端から現れたアヒルが、ついたて①に入っていたアヒルと同一のおもちゃ(まったく同じ個体)だとしたら、ついたて②の右端から姿を現す前に、ついたて①とついたて②の隙間の空間に、それが見えなければならぬはずだから

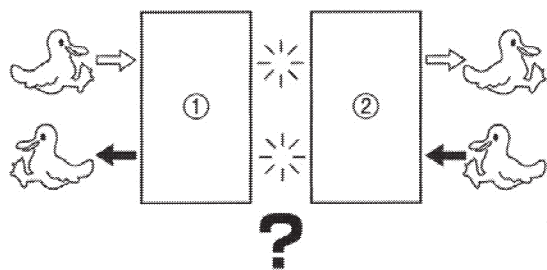


図2 2枚のついたてとアヒルのおもちゃの出入り

である。それが見えなかった、ということは、見た目が同じアヒルのおもちゃが二個あって別々に動いているはずだ。

驚くべきことに、生後一〇カ月の赤ちゃんに、この推論ができるのである。赤ちゃんは、ついたてが一つだった場面で、ついたてが取り払われ、アヒルのおもちゃが一個だけだとわかっていても驚きを示さなかったが、ついたてが二個ある場面でついたてが取り払われ、一個のアヒルしかなかったときは、びっくりして舞台をじっと長く見つめ続けたのである。

この結果は、赤ちゃんが、モノが動いているときに、動きの Ⅱ 的連続性と Ⅲ 的連続性を手がかりに、いくつかのモノが動いているかを理解できることを示している。言い方を変えると、赤ちゃんは動きの Ⅱ ・ Ⅲ 上の軌跡が連続しているかそうでないかによって、動いていたものが同じ個体か違う個体か、ということを決めることができるのだ。

さて、この研究者は次にどのような実験を行ったか。前の実験では、まったく見た目が同じアヒルが、ついたての後ろを出たり入ったりしていた。今度は、二つのモノが登場する。最初の場面と同じように、ついたてが一つで、その左端からアヒルのおもちゃがついたての後ろに入り、次に右端からイヌのおもちゃが出てくる(図3)。今度はイヌが右端からついたての後ろに入り、左端からアヒルが出てくる。

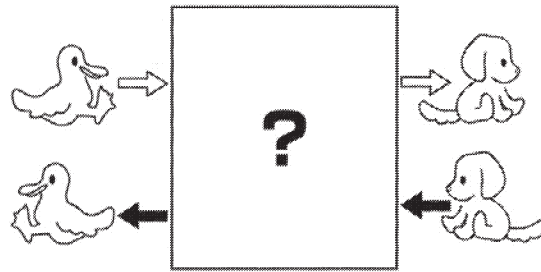


図3 1枚のついたてとアヒル、イヌのおもちゃの出入り

この場合、大人の私たちは当然、アヒルとイヌという二つのおもちゃが別々に動いていると思い、二つのおもちゃがあるのが当然、と考える。だが一〇カ月の赤ちゃんは、そうは考えないようだ。前の実験で、ついたてが二つになって、ついたての間からモノが行ったり来たりしているのが見えなかったときには、赤ちゃんは、おもちゃが二個なければならぬはず、と考えることができた。しかし今度は、アヒルとイヌというあきらかに違う、モノが動いていたのにもかかわらず、ついたてが一つしかない、それが取り払われたときに、そこにあるのがアヒルとイヌの二個のおもちゃではなく、どちらか一個しかなくてもびっくりしなかった。

これは何を意味しているのだろうか。ことばを学習する前の赤ちゃんは、時空間上の動きが連続しているか否かによってのみ、モノが同一の個体か、そうでないかを決めていて、モノ自体の見かけが同じかどうかは考慮しない。一〇カ月の赤ちゃんが、視覚的にアヒルとイヌのおもちゃを見分けられないことはありえない。しかし、一つの時間点に一つしか現れない、動いているモノが「同じ個体」なのか「別の個体が二つ」なのかを決めるのに、赤ちゃんは、見た目の違いよりも、動きの連続性のほうが大事だと考えて、イヌとアヒルの見た目の違いに注意を向けず、「二個」と考えてしまうようだ。それが、「イヌ」とか「アヒル」ということばを知ると、二つのおもちゃが「違うモノ」であるとはっきり認識するようになるのである。

実は、まだ「アヒル」、「イヌ」ということばを知らない赤ちゃんに、²「見て、アヒルだよ」「見て、イヌだよ」と言いながら、さっきのように、一つのついたての後ろからイヌとアヒルが出たり入ったりする実験をすると、「アヒル」「イヌ」ということば自体を知らなくても、二つのことばが言われたという事実から、モノが二つあることを期待することもわかった。つまり、モノの見た目よりことばが同じか違うかを頼りに、赤ちゃんは、時空間上に同時には存在しないモノが、同一のモノなのか、それとも二つの違うモノなのかを決めているようなのである。

先ほどの三毛ネコと黒ネコの話に戻るが、二匹を同時に見なくても、私たちは見た目の違いから、それが

二つの別の個体であることがわかる。しかし同時に私たちは、その二匹のネコがともにネコだから「同じ」であるとも思う。ここに、見た目はネコに似ている小型のイヌ（例えばチワワ）が登場したでしょう。そのとき、私たちは黒ネコが三毛ネコと「同じ」であるのと同じように、そのチワワも先ほどの三毛ネコと「同じ」であるとは思えない。チワワはイヌだから「違う種類の生き物」だと考える。そして、三毛ネコと黒ネコは同じような生物学的特性や行動特性を持つが、チワワは違う特性を持つ、と考える。

つまり、私たちは「同じ名前がつく同じ種類のモノ同士」を「同じ」であると考ええる。しかし、同時に、ネコ二匹もチワワも、ともに哺乳動物なので、何らかの同じ特性を共有しているはずだとも考えるのである。幼児も私たちと同じように考えるだろうか。例えば、三歳から五歳くらいの子どもにウシの絵を見せるとしよう。続いて、ブタの絵とミルクの絵を見せる。そして、子どもに「これ（ウシ）と同じ種類なのはどっち？」と聞く。すると、子どもは多くの場合、ミルクの絵が「同じ種類」だと言う。ウサギの絵を見せて、同じなのはどっち、と聞き、ニンジンとネコの絵を見せる場合にも、ニンジンを選ぶ子のほうが多い。子どもはもともとウシとミルク、ウサギとニンジン、サルとバナナ、というような連想関係にあるモノ同士を仲間と考え、「同じ」であると言う傾向が強い。

しかし、例えば、「怪獣語ではウシのことをネケと言うんだよ」と子どもに教え、ブタとミルクの絵を見せて、「どっちがネケ？」と尋ねるとする。すると、「同じ種類のモノ」を選んで、と言われたときはミルクを選んでいたのに、同じ年齢の子どもが、こんどはブタを選ぶのだ。

子どもにとって、ウシとミルク、サルとバナナのような連想関係はとても魅力的である。だから、単に「同じのはどっち？」と聞かれると、連想関係にあるモノを選ぶ。しかし、ラベルに関しては、ウシとブタのような、同じカテゴリに属するモノが同じラベルを共有する、と考え、サルとバナナのような連想関係にあるモノ同士は、同じラベルを共有しないはずだ、と考えているのである。

私たちは世界を様々にくくり、分類していくことができる。食べ物、道具、食器、植物、動物などのように概念を階層的に整理して分類することもできるが、「赤いもの」「固いもの」「丸い形をしたもの」のように、ある特徴によって分類することもできる。あるいはウシとミルクのように因果関係、サルとバナナのように連想関係で、モノ同士をまとめていくことも可能だ。

このように、⁴いろいろな基準でいろいろな分類が可能で、大人は「同じ種類」と言われると、ウシとブタのような同じ概念カテゴリに基づくモノ同士が「同じ種類」だと考える。それに対して、子どもは、モノ同士の関係のあり方として、因果関係、連想関係、同じ属性を持つ関係、同じ材質からできている関係など、様々な基準での「同じ」が存在することに早くから気づいているのだが、どの「同じ」をいつ使うべきなのかはわからないのだ。しかし、ことばの存在により、ことば（名詞）によってラベルづけされる分類の仕方、つまり概念カテゴリに従った分類が特別な分類だ、ということ⁵を学習していくのである。

だが、考えてみると、そもそも、⁵名詞によってラベルづけされる分類の仕方が、なぜ特別なのだろうか。これを考えるために、例えば「植物」に属するモノたち、「サルとサルの好きなモノ」たちと「赤いモノ」たちをそれぞれ考えてみよう。その中で、お互い同士の共通性に最も意味があるのはどれだろうか。

例えば、ある植物の根には〇〇という、有毒の物質が含まれている、ということを経験的に学んだでしょう。そのとき、人は、その植物自体を食べないように気をつけるだけではなく、それと「同じ種類」のモノも避けたほうがよい、と考える。では「同じ種類」は何を手がかりに探したらよいのだろうか。その植物の花と同じ色のモノすべてなのか、その植物に⁶キ生する虫なのか、それともその植物と同じカテゴリに属する植物なのか。このように、ある特定のモノにある属性があるとき、その同じ属性が他のモノにも共有され

ているかどうか推論することを「帰納推論」⁶という。人の思考の中で、帰納推論はもっとも重要で、もっとも頻繁に行われるものである。私たちはあるモノの属性が、それと「似たモノ」あるいは「同じ種類のモノ」と共有される可能性が高いと考え、直接経験しなくても、モノの属性について推論し、予^dソクするのである。帰納推論は、知識も経験も大人に比べて少ない幼児にとって、とりわけ重要である。しかし、知識が少ない子どもにとって、「同じ種類」のモノを決めることは容易ではない。「同じ」というのは曖昧で、いろいろな基準で、様々な「同じ」が可能だからだ。しかし、ラベルを持つのは概念カテゴリーで、「赤いモノ」「サルとサルの好きなモノ」のようなカテゴリーは通常、単語のラベルを持たない。したがって、ラベルを共有しているモノ同士は同じ属性を持つ、と考えれば、実際にモノについての経験や深い知識を持たなくても、あるモノにXという属性がある、と知れば、それと同じラベルを持つ他のモノに、その属性を帰納できる。このように、ことばを介して、子どもは直接経験したり教わったりしていないモノにどのような属性があるかを帰納推論によって学習し、概念を構築していくのである。つまり、ことばは子どもが自分で概念を学習し、大人の持つ概念構造を自らつくり上げていく際に、大きな役割を果たす。ことばが存在しなかったら、幼児が素早いスピードで概念を学び、コウ率よく概念体系をつくり上げていくことは不可能なのである。

（今井むつみ『ことばと思考』による）

問一 傍線部 a～e の漢字と同じ漢字を含むものはどれか。次の各群の 1～5 のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 1 ～ 5。

a

1 セイ約

- | | | | | |
|----------|---------|--------|-----------|-----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 海外に遠セイする | 自セイ心を失う | セイ密な機械 | 高原のセイ涼な空気 | 官セイはがきを買う |

b

2 階ソウ的

- | | | | | |
|---------|----------|-----------|----------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 雑ソウが生える | 店舗を改ソウする | ソウ合的に判断する | 友人にソウ談する | 組織の上ソウ部 |

c

3 キ生

- | | | | | |
|--------|---------|---------|---------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 納キに遅れる | 新人をキ用する | 財産をキ付する | 氏名をキ入する | キ密情報を守る |

d

4 予ソク

- | | | | | |
|----------|----------|----------|--------|---------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 野菜のソク成栽培 | 高ソク道路を走る | 体温をソク定する | 陸橋のソク道 | ソク席のチーム |

e

5 コウ率

- | | | | | |
|--------|--------|---------|---------|----------|
| 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 薬草のコウ能 | コウ妙な手口 | コウ空機に乗る | 反コウ的な態度 | 天コウが回復する |

問二 空欄Ⅰに入るものとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は

6。

- 1 アヒルは一個かもしれないし、一個もないかもしれない
- 2 アヒルは二個かもしれないし、一個かもしれない
- 3 アヒルは二個かもしれないし、もつとたくさんあるかもしれない
- 4 アヒルは一個もないかもしれないし、無数にあるかもしれない
- 5 アヒルは二個かもしれないし、三個かもしれない

問三 空欄Ⅱ・Ⅲに入るものはどれか。最も適当な組み合わせを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番

号は 7。

- | | | | | |
|---|---|----|---|----|
| 1 | Ⅱ | 感覚 | Ⅲ | 理論 |
| 2 | Ⅱ | 現実 | Ⅲ | 想像 |
| 3 | Ⅱ | 認識 | Ⅲ | 観念 |
| 4 | Ⅱ | 視覚 | Ⅲ | 聴覚 |
| 5 | Ⅱ | 時間 | Ⅲ | 空間 |

問四 傍線部1「そこにあるのがアヒルとイヌの二個のおもちゃではなく、どちらか一個しかなくてもびつ

くりしなかった」とあるが、それはなぜか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 8。

- 1 赤ちゃんは、おもちゃがついたての向こうで自らの形状を変化させるものと考えているから。
- 2 赤ちゃんは、形状ではなく専ら運動の連続性によっておもちゃの同一性を認識しているから。
- 3 赤ちゃんは、視覚的にアヒルとイヌの形状を区別する能力を体得することができていないから。
- 4 赤ちゃんは、おもちゃを色と動きによってのみ認識しており形状については無関心だから。
- 5 赤ちゃんは、周囲の大人がおもちゃを入れ替えていることを観察に基づいて理解できるから。

問五 傍線部2「『見て、アヒルだよ』『見て、イヌだよ』と言いながら」とあるが、この発話によってどの

ようなことを確かめることができたのか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 9。

- 1 赤ちゃんが、発話されることばの差異に基づいてモノの区別をすることができるとどうかということ。
- 2 赤ちゃんが、どのタイミングで特定のことばとモノとを結びつけることができるのかということ。
- 3 赤ちゃんにとって、「アヒル」と「イヌ」のうち、どちらの音がより強く働きかけるのかということ。
- 4 赤ちゃんが、ことばにとらわれることなくモノそれ自体を認識することができるかどうかということ。
- 5 赤ちゃんにとって、物事の矛盾を解消する手段がことばによる認識以外にあるかどうかということ。

問六

傍線部3「『怪獣語ではウシのことをネケと言うんだよ』と子どもに教え、ブタとミルクの絵を見せて、『どっちがネケ?』と尋ねる」とあるが、この実験によってどのようなことを確かめることができたのか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- 1 子どもの関心を引きつけやすい「怪獣語」という設定を用いてモノ同士の連想関係を強化することとで、概念カテゴリーによらない分類能力が高まるということ。
- 2 「怪獣語」という新たな概念体系を持ち出すことによって連想関係を解除できれば、子どもでも概念カテゴリーに従った分類を行うことができるのだということ。
- 3 いささか幼稚な「怪獣語」という話題を持ち出し子どもたちの疑問を引き出すことで、連想関係に影響されがちな自らの発想を相対化する概念カテゴリーの存在を示唆できるということ。
- 4 「怪獣語」という未知の言語の存在を示唆することで、世界の奥深さを感じさせ、ことばとモノの関係には解きたい謎があるのだと認識させられるということ。
- 5 「怪獣語」というもののものしい表現を用いることで子どもの奔放な想像力に歯止めをかけ、大人が期待する反応の方へと誘導することができるのだということ。

問七

傍線部4「いろいろな基準でいろいろな分類が可能」とあるが、大人と子どもの分類の仕方はどのように異なるか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- 1 大人はことばによって説明される定義に従って論理的な分類を行う傾向にあるが、子どもは色や形状など外見的特徴に基づいて感覚的な分類を行うことが多い。
- 2 大人は概念カテゴリーに基づく同一性を前提とした分類を行うが、子どもはしばしば自由な連想に基づいて場当たりの分類を行う。
- 3 大人はあらゆるものに関して等しく分類の思考を働かせることができるが、子どもは動物や食べ物など自分が関心を持つことのできる対象だけを分類の対象とする。
- 4 大人はことばに縛られてしまい事物を形式的に分類してしまいが、連想関係や因果関係などさまざまな分類基準をもつ子どもはモノを柔軟に受け止めることができる。
- 5 大人はさまざまな分類方法を比較検討した上で場面に最も適した分類を導き出すことができるが、子どもはしばしば直感に流されてしまい適切な分類にたどり着けない。

問八

傍線部5「名詞によってラベルづけされる分類の仕方が、なぜ特別なのだろうか」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- 1 ある対象に対して名詞によるラベルづけを行うと、同様のラベルを付与された別の対象について、詳しい知識がなくても一定の判断をすることができるようになるから。
- 2 扱いがたく名づけることの難しいような対象であっても、ひとたび名前を与えてしまえば既知の存在として日常生活の一部に組み込まれるようになるから。
- 3 ひとたびいい加減な名前を与えてしまえば、その対象に対する価値判断は固定化されてしまい、事後的にそうした判断を更新することは困難になるから。
- 4 名前を与えラベルづけを行うことはあくまでことばの上での操作にすぎず、モノそれ自体を捉えることから遠ざかってしまうから。
- 5 名詞によるラベルづけは個人の主観的な判断を超えた共通認識の形成につながるが、それは同時に対象に対する個人の思い入れも浮き彫りにするから。

問九

傍線部6「帰納推論」の具体例として適切でないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- 1 旅行先でサバを食べて食あたりを経験した人が、自宅に戻ってからアジやイワシを食べることをためらうようになる。
- 2 近所の交差点で交通事故に遭ったことのある人が、それ以後どここの交差点でも横断前にくり返し左右を確認するようになる。
- 3 くり返し電話をかけてもつながらなかったときに、手元に控えていた番号が間違っているのではないかと疑う。
- 4 ある場所で採れたキノコを食べた友人が中毒症状に陥ったことを知った人が、別の場所で採れたキノコを自分が口にするのをためらう。
- 5 幼い頃、秋田犬にかまれた経験のある人が、柴犬を見てもチワワを見ても、またかまれるかもしれないと警戒するようになる。

問十

本文では「子ども」と「大人」を対比する視点がくり返し提示されていたが、両者の違いとはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- 1 子どもは純朴であり、大人は屈折している。
- 2 子どもは邪悪であり、大人はまじめである。
- 3 子どもは大胆であり、大人は小心である。
- 4 子どもは混沌としており、大人は理知的である。
- 5 子どもは暴力的であり、大人は友好的である。

問十一 本文に関する説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 15。

- 1 動物や子どもの認識に関する事例を多く取り上げることによって、一般読者が興味をもつて読めるように配慮がなされている。
- 2 視点を切り変えながらひとつの事柄を多角的に検討することによって、筆者自身も想定していなかった結論が導き出されている。
- 3 読者に対する問いかけをくり返すことによって、文中で取り上げられている内容が社会性をもつたものであることを印象づけている。
- 4 図を効果的に用いながら実験内容をわかりやすく説明することによって、結論を実証的に導き出す過程を示している。
- 5 ことばをもたない動物とことばを体得する子どもとを対比する視点を明示することによって、説得力のある論理展開となっている。

問十二 本文の内容と合致するものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 16。

- 1 ことばを覚えることによって子どもが得るのは、認知能力ではなくコミュニケーション能力である。
- 2 ことばを十分に習得する前の段階において、子どもは何かと何かが「同じ」であると認識できない。
- 3 ことばを習得する前の赤ちゃんは、見た目の違いよりも動きの連続性の方に注目して対象を認識する。
- 4 赤ちゃんは、生まれつきモノの動きと同一性とを正確に関連づけることのできる能力をもっている。
- 5 赤ちゃんは、異なる場面で接した別のモノであっても動きの同一性に関連づけて混同してしまう。

問十三 本文の内容と合致しないものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。 解答番号は 17。

- 1 人間は、因果関係、連想関係などの基準によってモノ同士をまとめ分類することができる。
- 2 ことばを使いこなす人間にとって、三毛ネコとチワワが「同じ」でないことは自明である。
- 3 ことばによるカテゴリー分類を用いることで、人間はモノの共通性を理解することができる。
- 4 ある植物の有毒性について学んだ人間は、ことばを頼りに他の有毒な植物を回避する。
- 5 人間はことばを用いることで、直接見たことがないモノの属性を推測することができる。

(二) 次の文章を読んで、後の問い（問一～八）に答えよ。

パン屋襲撃の話を書き聞かせたことが正しい選択であったのかどうか、僕にはいまもって確信が持てない。たぶんそれは **A** 基準では推しはかることのできない問題だったのだろう。つまり世の中には正しい結果をもたらす正しくない選択もあるし、正しくない結果をもたらす正しい選択もあるということだ。このような不条理性^ア——と言って構わないと思う——を回避するには、我々^ハは実際には何ひとつとして選択してはいないのだという立場をとる必要があるし、大体において僕はそんな風に考えて暮している。起こったことはもう起こったことだし、起こっていないことはまだ起こっていないことなのだ。

そのような立場から物事を考えると、僕は何^ニもあ^ニれ^ニど^ニにか^ニく、妻にパン屋襲撃のことを話してしまった——ということになる。話してしまったことは話してしまったことだし、そこから生じた事件は既に生じてしまった事件なのだ。そしてもしその事件が人々の目に奇妙に映るとすれば、その原因は事件を包含する総体的な状況存在の中に求められて然るべきであろうと僕は考える。しかし僕がどんな風に考えたところで、それで何かが変わるというものではない。そういうのはただの考え方に過ぎないのだ。

僕が妻の前でパン屋襲撃の話を持ちだしたのは、ほんのちょっとしたなりゆきからだった。その話を持ちだそうと前もって決めていたわけでもないし、そのときにふと思いついて「そういえば——」という風に話しはじめたわけでもない。僕自身その「パン屋襲撃」という言葉を妻の前で口に出すまで、自分がかつてパン屋を襲撃したことなんてすっかり忘れてしまっていたのだ。

そのとき僕にパン屋襲撃のことを思い出させたのは堪えがたいほどの空腹感であった。時刻は夜中の二時前だった。僕と妻は六時に軽い夕食をとり、九時半にはベッドにもぐりこんで目を閉じたのだが、その時刻に **I** 二人とも同時に目を覚ましてしまったのだ。目を覚ましてしばらくすると、「オズの魔法使い」にでてくる竜巻のように空腹感が襲いかかってきた。それは理不尽と言っていいほどの圧倒的な空腹感だった。

しかし冷蔵庫の中には食物という名をカンする^ウことのできそうな食物は何ひとつとしてなかった。そこにあるものはフレンチ・ドレッシングと六本の缶ビールとひからびた二個の玉葱とバターと脱臭剤だけだった。我々はその二週間ほど前に結婚したばかりで、食生活に関する共同認識というものをまだ明確に確立してはいなかった。我々がその当時確立しなくてはならないものは他に山ほどあったのだ。

その頃僕は法律事務所に勤めており、妻はデザイン・スクールで事務の仕事をしていた。僕は二十八か九のどちらかで（どういうわけか結婚した年をどうしても思い出すことができないのだ）、彼女は僕より二年八ヵ月年下だった。我々の生活はひどく忙しく、立体的な洞窟のようにごたごたと混みいつており、とても予備の食料のことまでは気がまわらなかった。

我々はベッドを出て台所に移り、 **II** テーブルをはさんで向いあっていた。もう一度眠りにつくには二人とも腹が減りすぎていたし——体を横にするだけで苦痛なのだ——かといって起きて何かをするにも腹が減りすぎていた。このような強烈な空腹感がどこからどのようにしてやってきたのか、我々には見当もつかなかった。

僕と妻は **III** 交代で冷蔵庫の扉を何度か開いてみたが、何度開けてみてもその内容は変化しなかった。ビールと玉葱とバターとドレッシングと脱臭剤だ。玉葱のバター炒めを作るという手もあったが、二個のひからびた玉葱が我々の空腹を有効に埋めてくれるとも思えなかった。玉葱というのは何かと一緒に口にするべきものであって、それだけで飢えを充たすという種類の食物ではないのだ。

「フレンチ・ドレッシングの脱臭剤炒めは？」と僕は冗談で提案してみたが予想したとおり黙殺された。

「車で外に出て、オールナイトのレストランを探そう」と僕は言った。「国道に出ればきつとそういうのが何かあるよ」

しかし妻はその僕の提案を拒否した。外に出て食事をするのなんて嫌だと彼女は言った。

「夜の十二時を過ぎてから食事をするために外出するなんてどこか間違ってるわ」と彼女は言った。彼女はそういう面ではひどく古風なのだ。

「まあ、そうだな」と僕は **IV** 言った。

結婚した当初にはありがちなことなのかもしれないが、妻のそのような意見（ないしはテーズ）はある種の啓示のように僕の耳に響いた。彼女にそう言われると、僕には、自分の今抱えている飢餓が国道沿いの終夜レストランで便宜的に充たされるべきではない特殊な飢餓であるように感じられたのだ。

特殊な飢餓とは何か？

僕はそれをひとつの映像としてここに提示することができる。

①僕は小さなボートに乗って静かな洋上に浮かんでいる。②下を見下ろすと、水の中に海底火山の頂上が見える。③海面とその頂上のあいだにはそれほどの距離はないように見えるが、しかし正確なところはわからない。④何故なら水が **B** すぎて距離感がつかめないからだ。

終夜レストランになんて行きたくないと妻が言うてから、僕が「まあ、そうだな」と同意するまでの二秒か三秒のあいだに僕の頭に浮かんだイメージはだいたいそのようなものだった。僕はもちろんジグムント・フロイドではないので、そのイメージがいったい何を意味しているかを明確に分析することはできなかったが、それが啓示的な種類のイメージであることだけは直観的に理解できた。だからこそ僕は——空腹が異様なほど強烈なものであったにもかかわらず——食事のために外出はしないという彼女のテーズ（ないしは声明）に半ば自動的に同意したのだ。

仕方なく我々は缶ビールを開けて飲んだ。玉葱を食べるよりはビールを飲む方がずっとましだったからだ。妻はビールをそれほどは好まなかったもので、僕は六本のうちの四本を飲み、彼女が残りの二本を飲むことになった。僕がビールを飲んでいるあいだ、彼女は **X** のようにこまめに台所の棚を探しまわり、袋の底にバター・クッキーが四枚残っていたのをみつけた。それは冷凍ケーキの台を作ったときの残りで、湿ってすっかり柔らかくなっていたが、我々はそれを大事に二枚ずつかじった。

しかし残念ながら缶ビールもバター・クッキーも、空から見たシナイ半島のごとき茫漠とした我々の空腹には何の痕跡も遺さなかった。それらは **Y** のように窓の外を素速く通りすぎていっただけだった。

我々はビールのアルミ缶に印刷された字を読んだり、時計を何度も眺めたり、冷蔵庫の扉に目をやったり、昨日の夕刊のページを繰ったり、テーブルの上にちらばったクッキーのかすを葉書の縁で集めたりした。時間 **Z** のように暗く鈍重だった。

「こんなにおながすいたのってはじめてのことだわ」と妻が言った。「こういうのって結婚したことと何か関係があるのかしら？」

わからない、と僕は言った。あるのかもしれないし、ないのかもしれない。

妻があらたなる食物の断片を求めて台所を探しまわっているあいだ、僕はまたボートから身をのりだして海底火山の頂上を見下ろしていた。ボートを取り囲む海水の **B** さは、僕の気持ちをひどく不安定なものにしていた。みぞおちの奥のあたりにぼっかりと空洞が生じたような気分だった。出口も入口もない、純粹な空洞である。その奇妙な体内の欠落感——不在が実在するという感覚——は高い尖塔のてっ

ぺんに上ったときに感じる恐怖のしびれにどこかしら似ているような気がした。空腹と高所恐怖に相通じるところがあるというのは新しい発見だった。

かつてこれと同じような経験をしたことがあると僕が思ったのはちょうどそのときだった。僕はあのとき、も今と同じように腹を減らしていたのだ。あれは――

「パン屋襲撃のときだ」と僕は思わず口に出した。

「パン屋襲撃って何のこと？」とすかさず妻が質問した。

そのようにしてパン屋襲撃の回想が始まったのだ。

（村上春樹「パン屋再襲撃」による）

問一 空欄Aに入るものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから選べ。解答番号は 18。

- 1 選択したのか選択させられたのかという
- 2 自分のためとか妻のためとかいう
- 3 自信があるとか自信がないとかいう
- 4 正しいとか正しくないとかいう
- 5 結果がよければそれが正義なのだからという

問二 傍線部A「不条理」の意味として正しいものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- 1 縦軸と横軸が交差している様子。都市計画などで用いられる。
- 2 真っ直ぐでないこと。先入観によって曲げられた考え方。
- 3 物事の筋道が立たないこと。道理に合わないこと。
- 4 論理的な思考の結論ではあるが、説得力を欠いていること。
- 5 特定のものや人物に利益が偏っていること。また、その様子。

問六 傍線部エ「便宜的に充たされるべきではない」とはどのような意味か。その説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□23。

- 1 終夜営業のレストランで出される程度の安価な軽食で心が充たされてはならない、という意味。
- 2 食物をたんに胃の中に入れることで解決されるような事柄であってはならない、という意味。
- 3 新婚の夫婦二人きりでする食事であれば本当の食事と認めてはならない、という意味。
- 4 深夜という時間帯にする食事を普段の食事と同じものと見なしてはならない、という意味。
- 5 眠りを犠牲にして得られる満腹感を本物の満腹感と見なしてはならない、という意味。

問七 本文に二カ所ある空欄Bには同一の語が入るが、正しいものはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は□24。

- 1 汚な
- 2 透明
- 3 青
- 4 深
- 5 多

問八 空欄X～Zに入るのはどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちからそれぞれ一つずつ選べ。同じ番号を二度以上使用してはならない。解答番号はX□25、Y□26、Z□27。

- 1 みすばらしい風景の一部
- 2 食事を済ませた子供たち
- 3 魚の腹に呑み込まれた鉛のおもり
- 4 十一月のリス
- 5 遭難した船

(三) 次の文章を読んで、後の問い(問一～七)に答えよ。

国語教師の清水治郎先生はクラス担任でもあったから、わたしは知らず識らずのうちに、清水先生の影響を心の底深くに受けていたのかもしれない。アンケートに文学博士になりたいと答えを書いたのも、ひよつとしたら清水先生が意識の底にあったのだろう、といまあの頃をかえりみて、ふと思った。

まさかそんな答えを書いたからではあるまいが、それから間もなくして、綴り方の時間に清水先生は前の時間に提出していたわたしの作文を立って読ませた。それは寄宿舎の中でのちよつとしたできごとを書いたもので、どういうわけか書くとき頭の一隅で芥川龍之介か、あるいは当時好きになりかけていた **A** の「忘れえぬ人々」をちよつと意識していたように思う。なかなか面白く書けている、といって清水先生はその作文を褒めてくれた。何かしら漠然と、たんなる作文と小説とのちがいが自分なりにわかるような気がした。

① 泉鏡花の「高野聖」のモデルが、当時わたしたちの中学の本校である広島高等師範学校の校長だった吉田賢龍氏であることを教わったのも、たしか清水先生からだった。きれいに頭の禿げ上がった、小柄でエネルギーギッシユな吉田賢龍氏の姿を、「高野聖」の中の **B** と重ね合わせると、小説がぐんとこちらに近づいてくるような気がした。そんなわけで「高野聖」の印象は生涯消え去らぬものになった。しかし清水先生は日本の自然主義文学はあまり好まないらしく、文学史の時間に徳田秋声の「**徴**」を、きたനらしいと言つて斥けたことを憶えている。

③ 永井荷風もまた清水先生によれば、きたനらしい文学の一つであるらしかった。わたしは中学を卒業してからも数年間、徳田秋声と永井荷風の文学はきたനらしいという先入観を拭い去ることができなかった。白紙に近い中学生の心に、ともかく清水先生はこうに文学の影を投じたのである。

図書室に入る生徒は少なかったので、そこへ行けばいつでも自由に本が読めた。わたしは **A** の短編「武蔵野」や「源叔父」や「空知川の岸边」や「運命論者」や自伝「欺かざるの記」を読み、夏目漱石の「坊つちゃん」や **C** を読み、また、そろそろ色気づいてくる年頃だったせいかわかり、ギリシヤのヴィーナス像の写真に心をときめかしたりした。しかし、図書室でじつと読書に耽つているよりは、やはり、外で野球をしたり、サッカーをして遊ぶ方が楽しかったから、文学に凝るというようなことはまったくなかった。それでもいつしか、上の学校へ行くときは、理科ではなく文科を受けることに心をきめていた。わたしの周囲には、陸軍士官学校や海軍兵学校へ行く生徒もいたけれど、将校養成の学校など、わたしにはまったく無縁の存在だった。

④ 当時盛んになり出していたプロレタリア文学にはじめて目をひられたのは、中学四年のときだった。

(佐々木基一『昭和文学交友記』新潮社による)

問一 二カ所ある空欄Aには、同じ文学者名が入る。それは誰か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 樋口一葉
- 2 坪内逍遙
- 3 尾崎紅葉
- 4 幸田露伴
- 5 国木田独歩

問二 傍線部①「泉鏡花」の属していたとされる文学結社は何か。次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 文学界
- 2 硯友社
- 3 萩の舎
- 4 桂園派
- 5 明六社

問三 空欄Bに入る語は何か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 旅僧
- 2 旅商人 たびあきんど
- 3 薬売り
- 4 巡査
- 5 魑魅魍魎 ちみもうりよう

問四 傍線部②「自然主義文学」について、以下の問いに答えよ。

あ 「自然主義文学」に分類される作品はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

解答番号は 。

- 1 和解
- 2 刺青
- 3 明暗
- 4 赤蛙
- 5 蒲団

い 「自然主義文学」に分類されない文学者は誰か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

解答番号は 。

- 1 森鷗外
- 2 島崎藤村
- 3 田山花袋
- 4 正宗白鳥
- 5 岩野泡鳴

問五 傍線部③「永井荷風」について、以下の問いに答えよ。

あ 「永井荷風」の作品はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号

は 。

- 1 カインの末裔
- 2 細雪
- 3 腕くらべ
- 4 鼻
- 5 雪国

い 「永井荷風」はどの文学流派に分類されるか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。

解答番号は 。

- 1 白樺派
- 2 耽美派
- 3 新感覚派
- 4 第一次戦後派
- 5 第二次戦後派

問六 空欄Cに入る作品名は何か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 山月記
- 2 路傍の石
- 3 三四郎
- 4 桜の森の満開の下
- 5 注文の多い料理店

問七 傍線部④「プロレタリア文学」について、以下の問いに答えよ。

あ 「プロレタリア文学」に分類される作品はどれか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 火花
- 2 ノルウェイの森
- 3 蟹工船
- 4 河童
- 5 春は馬車に乗って

い 「プロレタリア文学」に分類される文学者は誰か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選べ。解答番号は 。

- 1 三島由紀夫
- 2 川端康成
- 3 梶井基次郎
- 4 葉山嘉樹
- 5 井伏鱒二